

近江八幡製の楽器を使った クリスマス 弦楽四重奏コンサート



1st Violin
山森 温菜



2nd Violin
加納 あゆり



Cello
塚本 ひらき



Viola
森脇 崇

2021年
12月18日(土)

旧伴家住宅 大広間にて

14時開演

入場料 2,500円

チケット問い合わせ (旧伴家住宅)

電話 0748-32-1877

まちや倶楽部 旧槽蔵
(きゅうふなぐら)

17時開演

入場料 2,500円

チケット問い合わせ (まちや倶楽部)

電話 0748-32-4654

各公演50席限定

国際的評価を受けている、近江八幡市在住の弦楽器製作者・細野正洋氏の楽器をメンバー全員が使用した、弦楽四重奏のコンサートです。曲目は姉妹都市マントヴァのクリスマスコンサートにならない、イタリアで愛されている作曲家の音楽を中心に演奏します。

-program-

パッヘルベル カノン
ヴィヴァルディ 四季より 春 など
ジーノ・メスコリ 愛のおとずれ ほか

ご来場の皆様へ
新型コロナウイルス対策として、休憩をとらず約60分程度のコンサートとなります。入場時に検温及び手指のアルコール消毒にご協力をお願いいたします。

歴史的建造物を会場としているため、寒中での音楽会が想定されます。本場のクリスマスコンサートにならない、コート、手袋、マフラー等防寒着着用の上で音楽会をお楽しみください。

主催 近江八幡クリスマスコンサート実行委員会

後援 近江八幡市/近江八幡市教育委員会

協力 公益財団法人八幡教育会館/まちや倶楽部/ウォルナット弦楽器工房



マントヴァのXmasコンサートとは？

マントヴァ最古の場所、ドゥオーモ（サン・ピエトロ大聖堂）で、毎年クリスマスの時期にコンサートが開かれます。地元の銀行主催のこのコンサート、マントヴァ市民はなんと無料で聴くことができます。大聖堂は毎年人で埋め尽くされ、ヴィヴァルディなど、マントヴァゆかりの作曲家たちの音楽が演奏されます。市民はコート・マフラー・手袋をつけたまま音楽を楽しんで、クリスマスを祝うことが慣習になっています。

program

・J・パッヘルベル

《カノン》

作曲の時期、経緯は不明。17世紀ごろの作曲とみられるが、友人の結婚式のために作曲したという説がある。

・J・S・バッハ

《G線上のアリア》

作曲時期不詳。管弦楽組曲第3番ニ長調 BWV 1068の第二曲を、ヴァイオリニストのウィルヘルミが編曲したものが、今日この名称として親しまれている。一般的には18世紀初頭の作曲とみられている。

・A・ヴィヴァルディ

《四季》

イ・ムチジ合奏団によって、世界中に知られるようになった名曲。近年の研究により、マントヴァで作曲されたことが明らかになっている。

《春》

「春がやってきた小鳥は喜び、祝っている。小川のせせらぎ、風がやさしくなでる。春をつげる雷が轟音をたてて黒い雲が空を覆う。嵐は去り、小鳥は素晴らしい声で歌う。」これらの自然の情景を、ヴィヴァルディは見事に音楽で表現している。1723年に作曲され、イタリアにおけるヴァイオリン奏法にも大きな影響をあたえている。

《冬》

「外は大雨がふっている。中で暖炉をかこみ、満足そうに休息」

・P・マスカーニ

《カバレリア・ルスティカーナより 間奏曲》

1890年に完成。マスカーニはこの作品によってオペラ作曲コンクールに優勝、イタリアオペラ界に名をはせることになる。タイトルの意味は「田舎の騎士道」である。戦に敗れた騎士が、夕日にてらされた田舎道のあるいていく。その情景を弦楽器のメロディーが美しくあらわしていく。

・S・グレジ（1960年生～2007年没）

《四月の雨の中を歩いた》

イタリアマントヴァの作曲家兼ピアニスト。ピッツィカート奏法によるこの曲は、作曲家自身が「雨の中を傘をささずに歩いた」体験をもとに作曲されています。はじく弦の音が雨音の様に響き、演奏会のアンコールとしてしばしば演奏されます。

・G・メスコリ

《愛のおとずれ Due parole》

現在91才、マントヴァ生まれの作曲家。イタリアではあまりに知られた著名な作曲家である。1978年東京で開催された第9回世界歌謡祭のグランプリ作品。2019年に生まれ故郷のマントヴァの合奏団のために、この曲を弦楽合奏版にアレンジした。

（演奏者の都合により、プログラムは変更される可能性があります）

Violin 山森 温菜

5歳よりヴァイオリンを始める。第25回KOBE国際音楽コンクール弦楽器C部門最優秀賞及び兵庫県教育委員会賞受賞。3rd International Tadeusz Wroński Violin Course in Nałęczówにてディプロマを取得。これまでに小崎恵理子、大谷玲子各氏に師事。京都市立芸術大学弦楽専攻卒業、卒業演奏会に出演。現在、関西を中心に演奏活動をしている。

Cello 塚本 ひらき

近江八幡市出身 9歳よりチェロを始め、さきらジュニアオーケストラアカデミーに入校、同オーケストラでは13歳～17歳まで首席を務めた。第4回みおつくし音楽祭クラシックコンクール高校生の部第1位等数々のコンクールに入賞。これまでにチェロを菱倉新緑、北口大輔、上村昇、向山佳絵子の各氏に師事。京都市立芸術大学卒業。現在、京都市立芸術大学大学院2年。

Violin 加納 あゆり

群馬県高崎市出身。6歳よりヴァイオリンを始める。第13回ベートン音楽コンクール第4位。これまでにヴァイオリンを井桁正樹、矢嶋佳子、小川有紀子、豊嶋泰嗣の各師に師事。またビオラを山本由美子、篠崎友美の各氏に師事。京都市立芸術大学音楽学部卒業。現在、関西を中心に音楽活動を行なっている。千里音楽院ヴァイオリン講師。

Viola 森脇 崇

大阪府出身。大阪芸術大学演奏学科卒業。マントヴァ国立音楽院修士課程に在籍し、2018年より同国立音楽院管弦楽団の首席ヴィオラ奏者を務めている。2019年トラメソノレ音楽祭に出演、ドゥカーレ宮殿内サンタバルバラ教会での演奏会は、日伊を結ぶ歴史的コンサートとして両国で広く報道され、同年近江八幡市島沖島でパオロ・ギドニーニ氏とルイジ・ガッティの二重奏曲を演奏した。